

- 徳川時代に於ける悪貨濫造の結果に就て(三田・一九・一〇)
- 佛教の興立と商人階級の活動(三田・一九・二)
- チユルゴ一のギルド解散令と水野越前守の問屋組合禁止令(三田・一九・三)
- 商生周生に見はれたる政治的経済思想(経済・二二・二)
- 近世西陣の労働問題(経研・二二・三)
- 西陣の機業仲間(経済・二〇・一)
- 天保以後の西陣(経済・二〇・六)
- 御家人の特質(経済・二〇・三、四、五)
- 舊鹿兒島の砂糖専賣(経済論・四・一)
- 舊鹿兒島の藩の財政改革(経済論・四・二)
- 仙臺通賣と琉球通賣に就て(経済論・三・三)
- 徒然草に表れたる経済思想(日法・二二・四)
- 一五〇年前渡來のツウンベルク氏と農業経済の研究(國家・三九・一〇)
- 徳川時代岡山江戸間の海運(経済・二二・二)
- 岡山藩と大阪との海運(経済・二二・六)
- 往古に於ける上海と日本の史的關係(経済・二〇・一)
- 八幡船考(経済・二二・四)
- 支那の記録から見た長崎貿易(東亞・九・二、三)
- 古羅馬社會闘争史上に於けるキケロ(三田・一九・九)
- マルク共産體の研究(社科・一・六)
- 濺本誠一 ユトピア島より新アトランチヌ島への移動(三田・一九・三)
- 英吉利社會思想大略(財政・二二・三、二四)
- 産業革命に就て(歴史・一六・一、四、五)
- 英國産業革命史一斑の説明(三田・一九・九)
- 英國に於けるマーカンテリズムの隆興及衰滅(社科・二二・三)
- 本邦古代の状態に對する考古學的研究に就て(史學・三六・四、五)
- 金融資本主義雜考(我等・七・三)
- 商業組織の改善(商學・五・二)
- 「好景氣」美酒の陶酔(中央・四〇・一〇)
- 我國に於ける銀行集中の傾向に就て(同志・一六)
- 銀行の社會的考察(同志・一八)
- 經濟困難の對策(同志・七)
- 保護政策の是非(公民・六)
- 不景氣常態論(中央・四〇・一〇)
- 國民經濟力整理と財政及行政の整理(中央・四〇・一)
- 我が經濟生活の過渡的行詰と根本的行詰及其轉換(中央・四〇・一〇)
- 我國經濟的危機の根因と其轉換策(改造・七・二)
- 資金の意味と其蓄積及支配(改造・七・三)
- 有産階級の奢侈と我産業の行詰(改造・七・六)
- 高橋誠一郎
- 小泉信三
- 西田直
- 高木壽一
- 高橋誠一郎
- 梅原末治
- 谷口彌五郎
- 上田貞次郎
- 清澤例
- 黒川芳藏
- 黒川芳藏
- 下村宏
- 上田貞次郎
- 澤田謙
- 渡邊鐵藏
- 高橋龜吉
- 高橋龜吉
- 高橋龜吉
- 高橋龜吉

何故に日本資本主義經濟は行詰つたと云ふか(改造・七・八)

- 經濟困難と國民經濟正解の急要(改造・七・一)
- 經濟的危機に面して(改造・七・一)
- 經濟社會の行詰りと其打開(中央・四〇・一〇)
- 不景氣を最極點まで徹底せしめよ(中央・四〇・三)
- 領國經濟の危機我國に迫る(改造・七・二)
- 現代社會に於ける資本の構成(社時・五・二)
- 經濟政策定立上の豫件(社科・一・四)
- 經濟的危機に直面して支配階級の覺醒を促す(財政・二二・一)(社説)
- 産業の金則(兵工・一三)
- 財界當面の重要問題(大銀・二三・五)
- 財界革新と財界組織(大銀・二三・〇、一)
- 我國經濟界の前途に對する景氣不景氣論(東銀・四七・八)
- 株式會社の現代生活に及ぼす影響(承前)東銀・四六・八、四七・〇、一)
- 本邦企業集權現勢(經資・一一・八)
- ハーバー博士の日獨經濟提携論(三菱・二三・四)
- 本邦に於ける財界の變動と電氣事業(資料・五七)
- 我が國の政治と其經濟的背景(東經・一七・八)
- 生産高より見たる各種産業の消長(東經・一一七・四)
- 規模の大小より見たる各種産業の消長(東經・一一七・四)
- 生産者より見たる我國産業の地位(東經・一一七・四)
- 高橋龜吉 會社資本より見たる我國産業の位置(東經・一一七・四)
- 武藤山治 産業助長論(東經・一一七・四)
- 神戶正雄 工業立國論(東經・一一七・四)
- 堀江歸一 我國景氣の推移と經濟基礎の變化(東經・一一六・二、三、四)
- 堀江歸一 我國景氣の推移と經濟基礎の變化(東經・一一六・二、三、四)
- 堀江歸一 輸出會社投資及歳出より見たる我國勢の發展(東經・一一五・七)
- 阿部賢一 經濟界の位置を如何に見るべきか(東經・一一五・三、四、五、六)
- 本邦投資の方向(東經・一一五・三)
- 我が産業の土地費負擔(東經・一一四・六)
- 我國に於ける投資活動の方向と内容(エコ・三一・九)
- 財政は消極、經濟は積極(エコ・三一・六)
- 財界の現状と今後の景氣(エコ・三一・五)
- 産業國の建設に努めよ(エコ・三一・二、三、四)
- 産業立國の意義と方策(エコ・三一・二)
- 産業立國の實現(エコ・三一・一)
- 日銀と正金の利益解剖(エコ・三一・一〇)
- 財政と金融の改善(エコ・三一・八)
- 放漫な經營から來た我が産業行詰りの實情(エコ・三一・四)
- 財政整理の財界に及ぼす影響(エコ・三一・六)
- 金の産出と物價の將來(理財・一五・一)
- ウイルフオード・アイキング 金利と物價との關係に就て(社科・一・七)
- 金利と物價との關係に就て(經濟・二二・五)
- 堀江歸一
- 堀江歸一
- 堀原伸治
- 永富守之助
- 大口喜六
- 堀江歸一
- 結城豊太郎
- 土方成美
- 谷口吉彦

不換紙幣と物價(三田・一九・一)  
 爲替と物價(大銀・三三・一)  
 根本に觸れぬ我國物價調節策(エホ・三・三)  
 波瀾激しき我國の物價(エホ・三・三)  
 物價昂騰は我財界の整理を妨(エホ・三・三)  
 關稅と物價の關係(早大商・一)  
 物價論の一考察(國民・三八・一、二)  
 不當廉賣の研究(經資・一一・一、二)  
 不當廉賣制に就て(經論・三・四)  
 通貨の價値の變動及び長期貸借の決済に就て(國家・三九・五)  
 公益事業會社の配當制限と資本化(都市・一・六)  
 上等品の價格と下等品の價格(經論・三・三)  
 會計より見たる物價と經營に就て(國民・二八・三)  
 卸相場と小賣相場の關係に就て(三田・一九・六)  
 近世産業組織の一面觀(商業・三八・三、九)  
 金解禁非解禁問題の重點(エホ・三・八)  
 金輸出解禁即行の急要を主張する理由(公民・二)  
 所謂金解禁の惡影響(財政・一一・一、二)  
 貨幣價値の下落(大銀・二二・三)  
 金貨本位(復歸)の経路(國家・三九・一、二)  
 兌換制度の確立と改造(改造・七・三)  
 貨幣相場安定の問題(社會・四・二)

高城仙次郎 銀行金融論(東經・一一七四)  
 山室宗文 目下の貨幣に就て(東經・一一三一、二)  
 金本位制復歸の譯妄(エホ・三・一六一、二〇〇)  
 正貨政策樹立の急務(エホ・三・五)  
 通貨政策に就て(經論・四・一)  
 貨幣經濟發展の極致としての振替支拂現象(國民・三八・六)  
 銀行制度に於ける金幣主義と分業主義との接近(國民・三八・五、三九・一)  
 憂慮すべき山林と天與の水産(エホ・三・一六)  
 我國工業の死活問題(エホ・三・三、二)  
 本邦鐵鋼の自給に就て(三菱・二二〇)  
 本邦石油政策の歸趨(商業・三九)  
 鐵鋼業の窮狀に表はれたる本邦産業の危機を論ず(國家・三九・四)  
 我が製鐵業に就て(商業・三九)  
 製絲工業企業形態論(國民・三八・四、五)  
 産業社會の進化と産業組合製絲の變遷(國民・三八・三)  
 産業經營の職能と其分化(經論・四・一)  
 工場に於ける販賣政策及び組織について(經論・四・一)  
 我が綿工業に就て(商業・三七、三八)

藤澤利喜太郎  
 小倉車次  
 猪間驥一  
 原口亮平  
 高城仙次郎  
 岡崎良藏  
 土方成美  
 福田徳三  
 福田徳三  
 成瀬義春  
 福田徳三  
 藤澤利喜太郎  
 堀江歸一  
 佐々弘雄

松方正義  
 S S 生  
 川島清次郎  
 橋爪明男  
 谷田義一  
 田中金司  
 堀江歸一  
 本宮一男  
 小島精一  
 大平頼母  
 早川直瀨  
 早川直瀨  
 馬場敬治  
 渡邊鐵藏  
 大平頼母

内地人の經營にかゝる在支企業を撤退せよ(エホ・三・一五)

本邦紡績の對支關係(エホ・三・一七)  
 支那紡績業の現在及將來(紡績・三八九)  
 人造絹糸工業の發達と本邦養蠶の將來(農會・一五・二三)  
 我國の海外貿易に就て(商學・五・三)  
 贅澤品關稅の經濟社會に及ぼせる影響(經論・四・一)  
 關稅の外國貿易に及ぼす影響に就て(經研・二・一)  
 經濟生活の根柢(公民・一一)  
 支那排斥罷業擾亂の意味と日本の位置(改造・七・七、七、七)  
 上海罷業事件と我が海運界に及ぼしたる影響(滿鐵・五・七)  
 支那内亂の本邦貿易に及ぼせる影響(資料・五・三)  
 一醫師の保險獨占論(經論・四・一)  
 日本米は高いか安い(國民・三八・三)  
 大戰の勞働賃銀に及ぼせる影響(經研・二・一)  
 國民經濟の國際化(國際・五・一、一)  
 國際金融中心點に關する研究(改造・七・一〇)  
 復興途上の世界經濟(國際・五・八、九)  
 經濟的世界的數學的表現(三田・一九・七)  
 最近の國際經濟統計一斑(大阪・二一・六)  
 一九二四年金銀年報(理財・一五・六)  
 歐洲各國の通貨問題と金本位制(三菱・三三・五)  
 諸外國に於ける金本位問題(理財・一五・特別第二號)

中澤辨次郎  
 奈佐忠行  
 土方成美  
 菱沼勇  
 太田正孝  
 高橋龜吉  
 商工省貿易課  
 森莊三郎  
 澤田徳藏  
 猪間驥一  
 高柳松一郎  
 堀江歸一  
 森賢吾  
 武部與八郎

金本位制の矛盾(理財・一五・二二)  
 歐洲通貨の現在及將來(理財・一五・五)  
 貿易差額説と金本位(理財・一五・四)  
 歐洲諸國の戰時公債と合衆國(エホ・三・一一)  
 國債債務決済と債權國への資金移動(理財・一五・一一)  
 戰債整理と歐洲復興問題(エホ・三・二〇)  
 歐洲戰債の整理問題(エホ・三・一)  
 歐洲戰爭に基く國際金融上の關係(三田・一九・一)  
 世界的物價騰貴と對照表論上の評價(國民・三九・五、六)  
 復活せる英國の重農主義(國際・五・一一)  
 英國工業界の悩み(東工・二二)  
 英國食糧價格委員會報告摘要(理財・一五・八)  
 英國に於ける食糧價格問題(理財・一五・八)  
 英國經濟地位の根本的變化と産業政策(東經・一一五、四)  
 金本位の復歸に對するカツセル教授の論文(日法・二・六)  
 英金貨本位制の報告書をよむ(エホ・三・一五)  
 金解禁の實行は慎重なるを要す(理財・一五・二)  
 英國經濟的國策の動搖(エホ・三・一)  
 英國の金解禁とその影響(エホ・三・一〇)  
 F17案實施の成績と其將來(國民・三九・五)  
 F17案の國際經濟理論(國民・三九・四)

アーサー・キットソン  
 セリゲマン  
 ステューテスト誌  
 堀江歸一  
 山室宗文  
 堀江歸一  
 堀江歸一  
 平井泰太郎  
 下田將美  
 森田久  
 青木孝義  
 堀江歸一  
 キツヂイ  
 堀江歸一  
 井上準之助  
 生島廣治郎  
 堀井光藏

ドイツ案の経済的解剖(國民・三九・二、三)  
兌換制不要論(政研・三・五)  
獨逸の通貨問題に就て(國家・三九・九)  
歐洲戦後に於ける獨逸貨幣制度の變遷(東銀・四七五)

佛國の財政状態明細(理財・一五・三一七)  
瑞西の國富(理財・一五・一一)  
戰時共產主義時代に於ける勞農露國通貨政策の歸趨  
(東亞・九・三、四)  
米國經濟界の新時代(大阪・二二二)  
米國一九二四年國際貸借(理財・一五・一〇〇)

生島廣次郎 ラスキンを憶ふて(社時・六二)  
稻垣守克 ラスキンの社會哲學考察(丁酉・二六九)  
宇都宮 鼎 マルクスの社會概念(新人・二九五)  
岡田三郎 社會階級の本質(日社・一〇・五)  
佛國大藏省 交易關係論(社時・六二)  
波多野義熊 社會關係論に就て(社時・六二)  
社會學の歴史的發展(日法・二二・二一四)  
社會學と現象學(經濟・二〇・二、三、四、二一四)  
ピオツシヤル假設の意義(經濟・二〇・一)  
支那の社會の固定性(經濟・二〇・二)  
社會法學より見たる法律と道德との關係(社科・一一)

本位田祥男  
今井三郎  
マツクス・アドラー  
山口正太郎  
波多野 鼎  
新明正道  
淺野研眞  
米田庄太郎  
米田庄太郎  
矢野 仁一

一一 雜

社會進化と宗教(我等・七・五)  
社會と模倣(哲學・一一六)  
ウオードのスペンサー批評(承前)(日社・九)  
露西亞の基本的社會制度としての「ミール」(日社・一八)  
自然社會に於ける青年集會所の權能(日社・一〇)  
權力關係の進化(我等・七・一)  
「行動」の社會性と「經濟行爲」の反社會性(我等・七・五)  
マツクス・アドラー「唯物史觀に於けるテレオロギー」  
(社科・一一)

山口正太郎  
銅 直 勇  
田邊 壽 利  
今井時郎  
久保 榮 三  
長谷川 萬次郎  
長谷川 萬次郎  
平野義太郎

社會科學に於ける方法二元論(社科・一・三)  
定型としての共同社會(社科・一・五、六)  
自然的社會學と文化的社會學(社科・一・五)  
社會學に於ける文化の取扱(社科・一・五)  
發達諸段階に於ける社會の全體性(社科・一・五)  
カントロウキツチに於ける「社會學建設」の試み  
(社科・一・五)  
デュルケムの集團意識論とその意義(社科・一・五)  
Gealligkeitの社會學(社科・一・五)  
ウイーゼの關係學綱要(社科・一・五)  
フイアカントとフオン・ウイーゼ社會學概念の比較  
(社科・一・五)

高柳賢三  
今中次廣  
高田保馬  
新明正道  
松本潤一郎  
小松堅太郎  
酒井正二郎  
淡 德三郎  
關 榮 吉  
波多野 鼎  
五十嵐 信

フイアカントの社會學概念に於ける二三の問題

(哲誌・一一四、五、七)  
マルタイ社會學に於ける豫見(社科・一・五)  
社會結合の三型式に就て(社科・一・七)  
社會結合形式の進化(思想・四五)  
社會學と其諸分科(思想・五七)  
社會進化の成層に於ける妥當感情(文化・八・五)  
社會過程(社時・五二)  
社會の心理學的解釋(社時・六〇、六一)  
ギデンダスの社會哲學に對する二三の疑問(社時・六一、六二)  
人類社會の形態(日社・一〇)  
社會法學の本質(日社・一一)  
米國社會學の發展(日社・一一、一二)  
經濟危機の社會心理的觀察(日社・一一)  
ラムブレヒトの文化發展時代分け(日社・一一)  
タイヤル人の社會編制(日社・一二、一四)  
經濟學の基調としての社會學に關する考察(日社・一四)

五十嵐 信  
高瀬花太郎  
錦田 義 富  
關 榮 吉  
淡 德三郎  
綿貫 哲雄  
綿貫 哲雄  
岩崎 卯 一  
小松堅太郎  
今井時郎  
山 口 正  
川邊喜三郎  
關 榮 吉  
内藤吉之助  
小 林 郁  
藏 内 敷 太  
レーデラー  
小松堅太郎  
松本潤一郎  
久保 榮 三

原始人類の研究(歴史・一五・四、一六、四、六)  
行爲に於ける社會の形式性(日社・一九)  
社會科學について(日社・二〇)  
社會の意識と意識の社會性(日社・二〇)  
社會起源に關する諸學說(日社・二〇)  
ナトルプに於ける社會的の意義(自由・一・五、六)  
社會史學の方法論に於ける二大先覺者(自由・一・六)  
社會の基本的諸關係の研究(補遺)(同志・一六)  
文化と國家(社會・五四)  
國家主權と社會主權(社會・四・七)  
意志關係の基本形式(我等・七・三)  
社會結合の「共同」と「集合」(我等・七・三)  
共同社會論(我等・七・四)  
欲望充足の分化に於ける社會的要素(我等・七・八)  
社會學と心理學(我等・七・一〇)  
ブーグレルの社會學論(我等・七・一二)  
オツペンハイマーの社會論(我等・七・一一、一二)  
シモン・ド・シスモンデイの社會思想(中央・四〇・二)

下田 禮 佐  
新明正道  
高田保馬  
城戸橋太郎  
本田喜代治  
由良 哲 次  
土田 香 村  
波多野 鼎  
北 伶 吉  
新明正道  
波多野 鼎  
新明正道  
新明正道  
岩崎 卯 一  
新明正道  
本田喜代治  
新明正道  
久保田明光  
布川 靜 淵  
戸田 貞 三  
松本潤一郎  
岸本誠二郎  
小松堅太郎

結合の上位(社科・一一)	高田保馬	倫理と経済との關係(經濟・二〇・一一、一二)	高橋幸太郎
「結合の上位」の批評に答ふ(日社・一八)	高田保馬	階級闘争の倫理的考察(人と人・五・九)	ウヰリアム・ベエス
高田博士の「結合の上位」に就て(日社・一六)	下地寛令	新貴族主義(文明・五)	大島居三郎
社會の一元論的方針とモナド論的方針(哲學・一一、一二、一三)	淡徳三郎	現實なるバック作成の必要と義務(丁酉・二七五)	米田庄太郎
中世寺院法と社會問題(國民・三八・六)	山口正太郎	現象學的基本考察(經濟・二一・五)	米田庄太郎
七十年代の露西亞社會思想概観(三田・一九・二)	伊藤秀一	純正現象學的方法論及び問題論(經濟・二一・六)	米田庄太郎
英國都市起源考(三田・一九・七)	野村兼太郎	「純粹理性批判」に於ける「グマインシャフト」即ち相互作用の概念(日社・一〇)	米田庄太郎
中世英國都市研究資料(社科・一一)	野村兼太郎	道徳的自我の背景(丁酉・二七六)	米田庄太郎
基督教の影響を受けたる社會思想(商業・四〇)	尾形繁三	我が國古代の道徳と儒教(哲學・一一四、一一六)	綿貫哲雄
朝鮮社會史の斷面(東亞・九・一、三)	稻葉岩吉	佛教の理想と道徳(哲學・四六一、二)	高橋俊夫
我國のトーチカミズムの考察(日社・一五一・一七)	中山太郎	武家法制に現はれたる道徳(歴史・一六・一、一三)	木村泰賢
明治社會學史資料(日社・一八)	下出幸吉	ルーテルの思想とその革命的時代(丁酉・二六八)	澤田勝藏
現代に於ける自我問題の一面(改造・七・一〇)	錦田義富	國民道徳と國際道徳(丁酉・二六七)	朝目融溪
二十世紀の哲學(文明・七)	ベルトランド・ラッセル	犯罪と無産階級(同志・一七)	井上哲次郎
國際的親和力と個人主義(新人・二九三)	金澤宏	社會の進化と學生生活の現在及將來(改造・七・七)	河野密
人間生活の根本事實(人と人・五・二)	綿貫哲雄	學生と社會運動(改造・七・七)	長谷川如是閑
「自由」の歴史的哲學的考察(中央・四〇・九)	石原純	學生の社會意識と當局の階級的專制(中央・四〇・二)	赤松克麿
科學と道徳(中央・四〇・八)	ハイリッヒ・クノ	社會科學の階級性(改造・七・九)	大山都夫
宗教の新研究(我等・七・五・一〇)	新居隆一	學生社會科學運動の過去現在(改造・七・一)	森戸辰男
無産階級倫理の新基調(主義・二・五)	新居隆一	軍教反對同盟に於ける學研の役割(改造・七・一二)	林房雄
無産階級倫理の基礎(早大政・二)	大山都夫	社會科學研究に對する非科學的壓迫(中央・四〇・二)	長島又男
道徳の經濟的基礎を讀む(マル・二・三)	大木陽一郎	學校教育を社會生活より分離する迷妄から(中央・四〇・二)	長谷川如是閑
社會的適應の原理としての道徳(社時・五・二)	友枝高彦		安部磯雄

戰爭反對國際週間に就て(改造・七・二)	アンリ・バルビュッス	現代文化に於ける本質的傾向と偶然的勢力との關係(中央・四〇・一)	杉森孝次郎
所謂軍事教練に對する政治教育的見地からの批判(改造・七・二)	大山都夫	知識學としての認識論(中央・四〇・七)	杉森孝次郎
軍事行動による社會統制とその崩壞(改造・七・二)	長谷川如是閑	團體票個人票(丁酉・二七一)	大島正徳
ミリタリズムと藝術的感傷(中央・四〇・一一)	長谷川如是閑	窮極文明の行程の中に知識の民衆化と志向と様式と	田中玉堂
軍事教育の階級性の發現(中央・四〇・一三)	大山都夫	を考察す(中央・四〇・七)	田中玉堂
平和主義の二潮流(主義・二・五)	松下芳男	當來文明の基調たるべき改訂の精神を究明す(中央・四〇・二)	田中玉堂
解放か自由獲得か(原始・三)	加藤一夫	經濟上から見た高等教育並に教育機關(改造・七・七)	堀江歸一
社會思想としての民主主義(日社・九)	永井亨	インタレストの表現としてのイギリスの議會と新聞	大内兵衛
我國現時の思想問題(産業・二・三)	永井亨	(經濟・三・四)	柏田忠一
虛無思想序論(原始・一〇)	加藤一夫	白人經濟對東洋經濟(東亞・九・一)	藤田友作
意識の危險性(我等・七・一)	長谷川如是閑	産業及職業分類の方法(集誌・五・二一・五二六)	
人間的服従關係を否定する迷信(我等・七・七)	長谷川如是閑	露西亞に於ける國民主義状態に關する統計調査(集誌・五・三三)	
反抗の種々相とその社會的機能(我等・七・八)	長谷川萬次郎	社會勢力の消長(エコ・三・一九)	小松 綠
國家的統一と社會的統一との對蹠的關係(改造・七・一一)	長谷川如是閑	過激主義と國粹主義(東工・二二)	横竹平太郎
	長谷川萬次郎	資本主義の社會化と新經濟哲學(兵工・一六)	ロナルド・ウィルソ
	長谷川如是閑	労働者と外交(兵工・一七)	今井時郎
	大山都夫	産業の不安(兵工・一八)	澤田 謙
	大山都夫	街頭社會觀(社時・五五)	中込本治郎
	大山都夫	社會運動としてのK.K.K(社時・六〇・六一)	福場保洲
	大山都夫	資本主義の自然觀(社時・六〇)	
	山形東根	宗教と犯罪との關係に就て(日社・一一)	

萬人労働の哲學(啓明・四)  
 大衆兒童の生活(啓明・五)  
 消費文化の條件の効果(我等・七・九、一〇)  
 支那の無政府と儒家思想(我等・七・三)  
 大塚細亞主義の意義と日支親善の唯一策(改造・七・一)

商工日本と農村日本(改造・七・二)  
 日本に就ての印象(改造・七・四)  
 眞智と人間生活(中央・四〇・七)  
 新思想とは何ぞや(中央・四〇・七)  
 労働科學研究の史的考察(勞研・一・四)  
 社會問題發生の機構と原因(丁酉・二七七)  
 思想と國家(新民・二〇・二)  
 諸學問殊に文化的諸學問の分類に就て(法論・一三五、一六四、二一五)  
 國難に直面して(丁酉・二七〇)  
 近代政治闘争に於ける言論の説得過程の社會心理的考察(中央・四〇・一一)  
 産兒制限の問題について(丁酉・二七五)  
 シベングラーの「西歐文化没落」の思想を評す(丁酉・二七五)

階級觀念の下に流るゝ共存共榮の思想(史學・三六五)  
 名聲より見たる本邦偉人の統計的研究(心理・三・二)

下中彌三郎 各國國民性の史的考察(社時・五四)  
 大西伍一 現代國民性の比較研究(社時・五五)  
 岩崎卯一 國民性の研究と史觀論(社時・五六)  
 小島祐馬 日本民族は何處から来たか(自由・一・二、三)  
 我が國民性に就て(丁酉・二七六)

孫文 古代希臘のデモクラシーと其國民性(商學・五・二)  
 室伏高信 人種的對抗の難點(財政・一一・二)  
 エミール・レーデラー 人種的自尊と人種的偏見(丁酉・二七五)  
 金子筑水 人間の起原(我等・七・一)  
 生田長江 原始黃金時代の回顧(我等・七・三)  
 暁峻義等 親子の結合に就て(日社・一七)  
 吉田熊次 父權の黎明(自由・一一〇)  
 深作安文 性の倫理に就て(宗教・三・四)  
 自由戀愛に關する刑罰(主義・二・五、六)  
 ソレルの戀愛道德觀(新人・二九五)  
 高島平三郎 私立子保護問題(日法・二・二)  
 プロレタリアの家庭保護に就て(社時・五五)  
 兒童の公的扶養問題(大原・三・一)  
 兒童保護の經濟的基礎(大原・三・二)  
 公民教育概論(丁酉・二七八)  
 公民教育について(丁酉・二七二)  
 英國の成人教育(國家・三九・一)  
 フォーレル・ウオークの基本問題(日社・一四)  
 寺院の社會事業に就て(宗教・三・四)

永井 亨  
 永井 亨  
 永井 亨  
 土田 杏村  
 大島 正徳  
 三浦 新七  
 寒 星 峰  
 アドルフ・アース・ミラー  
 石川 三四郎  
 石川 三四郎  
 戸田 貞三  
 安田 徳太郎  
 今住 計雄  
 守田 有秋  
 エリゼ・二 郎  
 早田 正雄  
 菊池 慎三  
 高田 慎吾  
 高田 慎吾  
 木村 正義  
 紀 平 正美  
 菊池 勇夫  
 三好 豊太郎  
 長谷川 如是 閑

本邦社會事業概観(丁酉・二七二)  
 自殺に關する考察(日社・一三)  
 自殺の動機統計に就きて(統計・一〇)  
 自殺統計論(經濟・二・一、二、四)  
 兒童の自殺に關する統計的考察(集誌・五三〇、五三一)

ダーウイン以後(思想・四四、四五)  
 種の問題とその安定性(思想・四八)  
 人間愛の起源(經濟・二・一、五、六)  
 科學と労働階級(マル・二・二)  
 企業形態としての都市とその本質的觀念としての財政權(都市・一一)

米國に於けるコムミュニティーセンター運動(都市・一・一)  
 一) イギリスに於ける田園都市運動(都市・一・一、二、四) 弓家七郎  
 大都市と社會事業の發達(都市・一・二) 三好 豊太郎  
 大都市の二重制度に關する考察(都市・一・四、六) 狭 間 茂

布川 靜淵 産業住宅問題(都市・一・五)  
 杉田 直樹 来るべき奴隷制度(公民・一一、一三)  
 財部 静治 ロシア藝術の現位置(解放・三・四)  
 財部 静治 所謂イデオロギー中に於ける「藝術」の特殊性(解放・四・一)

柴田 銀次郎 イバニエスの思想的傾向(新人・二九四)  
 松 浦 一 勞農文藝の中樞思想(新人・二九五)  
 松 浦 一 新文化と新藝術(新人・二九五)  
 川村 多實二 無産階級藝術の内容と形式(新人・二九六)  
 ア・ボクダノフ 時代意識の文字(我等・七・二、三)  
 ブルジョア劇場よりプロレタリア劇場へ(我等・七・二、三)

澤 田 謙 現代の性愛と現代の文藝(丁酉・二六七)  
 藝術的創造と藝術的行動(改造・七・九)  
 放浪記(社會・四・三、五、一、二)  
 歐洲大戰後に於ける歐米宗教界の社界運動(宗教・三・一)

澤 田 謙  
 スペンサー  
 水野 和 一  
 トロツキ  
 茂 森 唯 士  
 阪 本 勝  
 鈴 木 厚 格  
 新 居 格  
 トロツキ  
 林 房 雄  
 千 葉 龜 雄  
 細 谷 雄 太  
 I. W. Krutol  
 長谷川 如是 閑  
 石 濱 知 行  
 海 野 幸 徳

B 社會問題關係主要著書

大正十四年中出版

社會問題辭典 高島 素之編 皇室と社會問題  
 現代社會生活の不安と疑問 堀 利彦著 社會問題研究(改訂)  
 (社會問題叢書第一編) 勞働協約法論  
 社會政策 波多野 鼎譯 勞働法制講話  
 勞働保險の研究 中島 慈著

附錄二 文 獻



生物學上より見たる死 竹中繁太郎著  
人類及地球の運命其他 石井重美著  
宇宙及人生 上巻 ショーベン著  
鏡近の思想 増富平藏著  
家畜の歴史 ホアンカレ著  
昆虫の風習 岡谷辰治著  
科學上より見たる人生問題 アンリ・ブワ  
非進化論と人生 フアンリ・ブワ著  
生物突變說 ド・フリリス著  
社會學通俗教科書 アルビオン著  
〔新學說大系八〕 エス・モール著  
社會學思想の人生的價値 高島素之著  
〔新學說大系一〇〕 高島素之著  
社會進化思想講話 ア・サラー著  
社會學講話 レウキス著  
社會學十二講 高島素之著  
社會思想史 杉山榮著  
社會進化論 波多野鼎著  
ベンジャミ  
ン・キツト著  
佐野學著

社會心理學概論 近世社會思想とその運動  
社會學と政治理論 社會學徒の描く世界  
社會傳統論 基督教社會學  
社會學と哲學 社會哲學原論  
哲學概論 西洋哲學史  
西洋近世哲學史 新哲學大系  
哲學思想の史的考察 社會生活と精神生活  
〔新學說大系六〕 批判主義に基く哲學的教育學  
時間と自由意志 (新學說大系三)  
哲學の本質 道德哲學の根本問題  
哲學と思想

マクドール著 宮崎市八譯  
平野學著 新明正道譯  
バートン著 關谷弘著  
ジ・ウィラース著 文明協會譯  
北野大吉譯 山田吉彦譯  
デュルケム著 土田杏村著  
兒玉達童著 兒玉達童著  
ロジャース著 桑木巖翼著  
北野大吉譯 ベンヤミン著  
ミユンスタ著 波利彌生譯  
ウスターマン著 森喜一譯  
オイツケン著 高橋正龍譯  
ナトルプ著 稻垣末松譯  
ベルグソン著 北野大吉譯  
ディルタイ著 勝部謙造譯  
ソロビヨフ著 荻田正喜譯  
福原武著

カントの實踐哲學 イムヌエール・カント  
デカルト 醫學と哲學  
ホッブハウス合理的善 道徳思想の發達  
集團心理 意志の自由  
新心理學 新心理學  
クロボトキン倫理學 倫理學概論  
クロボトキン倫理學 倫理學通論  
科學の根本問題 モンタヌスの日本誌  
日本文化史(古代) 世界を背景とせる日本現代史  
改訂増補日本文化史 近世日本國民史  
元祿時代(上中下) 大阪文化史

安倍能成著  
バウルゼン著  
伊達山共譯  
朝永三郎著  
永井湛著  
鹽田秀介著  
伊藤千眞三著  
マクドール著  
宮澤末男著  
ケンペル著  
パント著  
戸澤潤著  
タンスレイ著  
三浦共譯  
安倍浩譯  
内山賢次著  
永野芳夫著  
須藤新吉著  
石原純著  
和田萬吉譯  
安藤正次著  
長谷川正太郎著  
而立社編  
德富猪一郎著  
大阪毎日  
新聞社編

日本家族制度史研究 佐藤信淵家學全集 上巻  
福澤全集 第四卷 有史以前の跡を尋ねて  
人類學上より見たる我が上代の文化 歴史以前  
朝鮮文化史研究 西洋中世の文化  
世界文明史物語 宗教の發達  
社會と宗教と藝術 宗教哲學の本質及其根本問題  
日本宗教史 日本西教史  
日本基督教史 神代史と宗教思想の發達  
日本神話傳説の研究 日本國民思想史  
民間信仰史 支那佛教近世史の研究  
古代支那思想の新研究

砂川 櫻榮著 瀧本 誠一編  
同上全集刊行會 島居 龍藏著  
島居 龍藏著 酒卷 芳男著  
稻葉 君山著 大類 仲著  
アン・ドリツク・ウ  
アン・ルーン著 前田 眞譯  
アイギンク 高島素之著  
キング著 林 葵未夫著  
波多野精一著 土屋 詮教著  
北屋根安定著 太政官翻譯  
山本 秀焯著 津田 敬武著  
高木 敏雄著 高木 敏雄著  
清原 貞雄著 加藤 咄堂著  
水野 梅曉著 胡適著  
楊・内田共譯

東洋思想十六講 希臘主義と基督教主義との  
國和の道 國民道徳より見たるキリス  
ト教の本體 切支丹宗門の迫害と潜伏  
東洋史論叢(白鳥博士還曆記  
念論文集) 西洋宗教思想史(ギリシヤの  
卷第一) 世界宗教史  
超近代派宣言 アロレタリア文學手引  
思想と闘争 青年學徒に課ふ  
特權打破と私の哲學 反逆情史  
アロレタリアの使命 軍事教育反對論集  
公人の常識 日本論  
改訂版學藝論鈔 危險思想に直面して  
人格の生活 思想と人格  
人生論十二講

高須芳次郎著 倉田 百三著  
松村 松年著 姉崎 正治著  
波多野精一著 金山 龍重譯  
生田 長江著 小牧 近江著  
森戸 辰男著 森戸 辰男著  
秋守常太郎著 問題 社編  
住谷 悅治著 全國軍事教育  
反對同盟 吉野 作造著  
室伏 高信著 阿部 次郎著  
上柳延太郎著 吉田 靜教著  
深作 安文著 江原・中西共著

象徵主義の文化へ 文學と革命  
新藝術論 革命ロシヤの藝術  
勞農ロシヤの藝術論 新興ロシヤの種々相  
社會的に見たる藝術 無產者文化論  
露西亞文學的理想と現實 市民の敵  
此の後の者に 石炭王  
人生を横ぎる者 啄木の思想と生涯  
柯公全集(第一一五卷、別卷)  
國民小調 永達への理想  
支那文學研究 日本民謡の研究  
典籍叢談

田中 王堂著  
トロッキイ著 茂森 唯士譯  
ルナチャル 茅一著  
尾瀨 敬止著 新居 格著  
富士 辰馬著 ギニョイオ著  
井上 勇譯 トロツキイ著  
武藤 直治譯 クロボトキン著  
馬場・佐藤共譯 小山 勝清著  
ジョン・ラス 栗原 古城譯  
シンクレヤ著 堺 利彦譯  
麻生 久著 大原 外光著  
柯公全集 柯公全集  
徳富 蘇峰著 石原 純著  
鈴木 虎雄著 高野 辰之著  
新村 出著

想ひ出す人々 内田 魯庵著  
 タルド・未來史の断片 田邊 壽利譯  
 社會批評家としてのアプトン・シンクレア(パンフレット二一) 北澤新次郎著

二 社會主義

社會主義學說の大要(無産者パンフレット五) 堺 利彦著  
 階級闘争の進化 ハインドマン著  
 社會主義思想の史的解説 久保田明光著  
 無産階級の哲學 ヨゼフ・ディッゲン著  
 經濟科學概論 山川 均譯  
 マルクス資本論(第一卷) ボグダーノフ著  
 資本論解説(改訂) 高林 房雄譯  
 マルクス資本論略解 高島 素之譯  
 マルクスの剩餘價值 高島 素之著  
 マルクス剩餘價值學史(パンフレット一九二〇、二二、二三) 大原社會問題研究所著  
 マルクス經濟學(改訂) ウンターマン著  
 カール・マルクス研究 ヶキルブラン著  
 (新學說大系九) 赤松 要譯  
 マルクス經濟學大綱 石川準十郎譯  
 田中 九一譯

マルクスとエンゲルス  
 レーニン・マルクス傳  
 科學的社會主義序論  
 唯物史觀批判  
 レーニンの辯證法的唯物論  
 レーニン主義の哲學  
 唯物史觀の崩壊  
 轉形期經濟學  
 古代の社會闘争  
 中古の社會思想  
 社會主義及社會運動  
 社會民主黨綱領解説  
 最近獨逸社會黨史の一齣  
 露西亞大革命史  
 露西亞革命憲法論  
 露西亞革命の思想戰  
 金融資本論

嘉治・後藤共著  
 社會思想社著  
 ボルハルト著  
 水谷長三郎譯  
 ツガン・ペラ  
 ノフスキ著  
 水谷長三郎譯  
 デボリン著  
 探本 三吉譯  
 デボリン著  
 志賀 義雄譯  
 小林 橋川著  
 ニコライ・プ  
 ハロン著  
 佐野 文夫譯  
 エム・ベリア著  
 西 雅雄譯  
 同 要  
 ソムバルト著  
 林 要譯  
 カウツキー著  
 三輪 壽壯譯  
 森戸 辰男著  
 ウイリアムス著  
 梅原・杉井共譯  
 滿鐵調査課編  
 上村 進著  
 トロツキー著  
 井田 孝平譯  
 フォイエルバツハ  
 ヶキルブラン著  
 ヒルファ  
 猪俣津南雄譯

大資本の制覇(アメリカ帝國)  
 帝國主義の經濟的基礎  
 世界の資本主義戰  
 インターナショナル發達史  
 奢侈と資本主義  
 社會主義と農業問題  
 財産の進化(新學說大系二)  
 新カント派の社會主義觀  
 (社會問題研究叢書二)  
 伊太利に於ける社會主義者  
 の農業經營  
 資本主義經濟の没落  
 レーニン回想錄  
 ローザ・ルクセンブルグの手  
 紙と生涯  
 リーブクネヒトとルクセン  
 ブルグ  
 フォイエルバツハ論  
 シヤン・ジョレス  
 普選と社會主義

スコット・ム  
 アリントン著  
 角田 敬三譯  
 ミハエル・パ  
 ヴロキツチ著  
 上田 茂樹譯  
 高橋 貞樹著  
 淺野 研眞著  
 ゾムバルト著  
 田中 九一譯  
 ミルニータン著  
 河西太一郎譯  
 ボール・ラフ  
 アルグ著  
 高島素之譯述  
 廣瀨社會問題  
 研究所  
 北大・經濟學  
 農政學研究室  
 オイケン著  
 ボル・ガ著  
 西 雅雄譯  
 勢田 洋譯  
 トロツキー著  
 井口 孝親著  
 山川 均著  
 エンゲルス著  
 佐野 文夫譯  
 柳澤 健著  
 安部 磯雄著

三 經濟財政

資本主義と戦争  
 自由戀愛と社會主義  
 田園・工場・仕事場  
 (新學說大系四)  
 大杉榮全集(第三、五、七、八  
 編、別冊)  
 内外理想郷物語  
 未來史の断片  
 階級及第三史觀

新訂經濟學原論  
 動態經濟學原論  
 經濟學原理(上卷)  
 經濟學原理(第五、六、七、  
 八卷)  
 經濟學原理(改訂)  
 福田德三經濟學全集  
 (第一、二、三集)  
 現代の商業及商人(増補改訂)  
 最近經濟學說  
 經濟生活の理論(第一冊)  
 アダム・スミス富國論  
 (新學說大系五)  
 分配論  
 經濟讀本  
 第五十回帝國議會の協賛を  
 經たる財政及經濟關係の法  
 律と其内容  
 商學通論  
 經濟學說史研究  
 中世寺院法と經濟思想  
 最近價值學說史

イリイ、ウキ  
 ツカア著  
 石澤久五郎譯  
 バツテレ著  
 井關 孝雄譯  
 宮嶋 綱男著  
 タウシツグ著  
 長谷部文雄譯  
 マリシヤル著  
 大塚金之助譯  
 福田 德三著  
 福田 德三著  
 シマル・イ  
 金井 經司譯  
 土方 成美著  
 神水文三郎譯述  
 カイパー著  
 大山千代雄譯  
 太田 正孝著  
 日本 銀行  
 調 査 局  
 武田 英一著  
 山口 正太郎著  
 山口 正太郎著  
 シヤル・チ  
 山下 芳一譯

ウキリアム  
 スマート著  
 谷口彌五郎譯  
 小川市太郎著  
 北澤新次郎著  
 谷口彌五郎著  
 シュミット著  
 川西 正鑑譯  
 坂西 由義著  
 福田・坂西共著  
 本庄榮治郎著  
 レツキスキー著  
 山下 芳一譯  
 河津 暹著  
 福田 德三著  
 イングラム著  
 米山 勝美譯  
 ハイドマン著  
 八木澤次郎譯  
 田崎 仁義著  
 朝岡 會發行  
 山本勝太郎著  
 田邊新太郎編  
 同 右  
 小島 精一著  
 鶴野 久吾著  
 日本歴史地理學會編



常平倉の研究 本庄榮治郎著  
東京商科大学創立五十年記念論文集  
戦後に於ける我國の經濟及金融 井上準之助著  
末期の日本資本主義經濟と其轉換 高橋 龜吉著  
日本經濟の解剖 高橋 龜吉著  
日本經濟史話 細貝 正邦著  
國際經濟戰爭を通して見たる我國産業の發達を阻害する時弊九ヶ條 今泉嘉一郎著  
日本の金融 東洋經濟新報社編  
現時の貨幣と金融 平野 清著  
財界學 藤田 貞次著  
金融問題と對策 松崎 壽著  
金融問題の綜合的研究 沖中 慎幸著  
企業の財政 西尾 清一著  
會計事務の管理(神戸高商講義集二六) 原口 亮平著  
景氣循環に関する諸學說(財界研究叢書一) 野村 銀行  
經濟學手冊變動の研究(財界研究叢書二) 同 右  
經濟學手冊變動の研究(同上) 同 右  
景氣豫報の實現(神戸高商講義集二三) 津田 武二著  
工場經營の見方(通俗財政經濟大系二〇) 堀川淳一郎著

金融の見方(通俗財政經濟大系六) 小野 利徳著  
株式會社 佐藤 雄能著  
株式會社資本減少論 寺尾 元彦著  
銀行の見方(通俗財政經濟大系七) 遠藤麟太郎著  
實際銀行論 邊木 直一著  
米國金融商組織論 勝田 貞次著  
圓爲替の研究 前田 薫一著  
外國爲替の見方(通俗財政經濟大系九) 山崎 靖純著  
爲替相場と安定策 神田襄太郎著  
圓價崩落と爲替對策(文化大學叢書六) 山室 宗文述  
物價問題に就て 河津 運著  
會計より見たる物價と經營との關係に就て(神戸高商講義集二〇) 原口 亮平述  
爲替相場の決定について(神戸高商講義集二二) 増井 光藏述  
外國爲替相場の變動 勝田 貞次著  
物價論の一考察(神戸高商講義集一九) 田中 金司述  
重要貿易の研究 荻田才之助著  
取引所要論 長浦 欽司著  
市場論(銀行叢書五) 内池 康吉著  
本邦倉庫の職業に就て(神戸高商講義集二五) 内池 康吉述  
人造絹糸の發達 日本銀行 調査局

本邦綿絲輸出の減退と其實狀に就て 日本銀行 調査局  
印度に於ける本邦棉寸と瑞典棉寸 同 右  
實業讀本 武藤 山治著  
保險の見方(通俗財政經濟大系一八) 長永 義正著  
生命保險 石川 文吾著  
保險本質論 小島昌太郎著  
保險經濟概論 未 高信著  
日本家屋保險國營論 森 莊三郎著  
共同海損論 藤本幸太郎著  
ヒューブナー氏海上保險擔保附社債論 田中徳次郎著  
朝鮮經濟管見 栗栖 封夫著  
支那の金塊投機と銀相場 池田 龍藏著  
支那の同業組合と商慣習 井村 薫雄著  
支那經濟の見方(通俗財政經濟大系二二) 上海出版協會  
歐米に於ける工業概観 竹内 文彬著  
英國現代の經濟 瀧澤 七郎著  
國際資本戰 堀江 歸一著  
國際經濟と國民經濟 新開 社  
英國産業不振と其對策 堀江 歸一著  
戰前及戰後に於ける我對獨貿易狀況並に獨逸産業復興の我國に及ぼすべき影響 日本銀行 調査局

米國經濟の見方(通俗財政經濟大系二三) 和田 信夫著  
マルサス人口理論(第七版譯) 佐久間 原譯  
社會統計學史研究 高野岩三郎著  
人口統計研究 岡崎 文規著  
統計研究文獻 岡崎 文規著  
統計統計(改訂) 藤本幸太郎著  
統計的研究法 小倉金之助著  
經濟統計學の原理と應用・上 小林 新著  
應用統計學 シイジエツツ著  
貨幣價値の變動と契約 竹内 武男譯  
最近貨幣論 小町谷操三著  
貨幣論上(經濟學說大系) 杉 程次郎著  
同 下 安信 浩譯  
經濟政策要論(經濟叢書) 高橋 正男譯  
經濟政策綱要(第一分冊) 渡邊 鐵藏著  
新産業政策論 河津 運著  
工業經濟論(戸田著作集二) 永井 亨著  
工業政策 戸田 海市著  
工業政策原理(第一卷) 田中 實著  
經濟政策の本質並に生産政策原理 那須 皓著  
社會政策論 那須 皓著  
交通政策概論 戸田 海市著  
石油國策論 檜崎 敏雄著  
附録二 文 獻 長谷川尙一著

特殊問題研究 戸田 海市著  
財產學要論 神戶 正雄著  
租稅研究(第六卷) 神戶 正雄著  
ロビンソン財政學 神戶 正雄著  
土地增價稅論 前田 徳晴著  
エーベルヒ財政學 大竹 虎雄譯  
財政學(第三編) 馬場 鏡一著  
財政上の實際知識 田中大吉郎著  
經費論講義 土方 成美著  
支那關稅會議 波多野乾一著  
ドーズ案實施に於ける獨逸(神戸高商講義集二四) 日本銀行 調査局  
ドーズ案の國際經濟理論 増井 光藏述  
英國外債抑制撤廢事情 日本銀行 調査局  
世界戰爭開始以來最近に至る迄の印度省證券賣出の狀況 チェンパレン委員會報告と英國金本位條例 同 右  
印度貨幣制度の概要 同 右  
通俗財政經濟大系五) 森田 久著  
稅の見方(同右四) 同 右  
稅制整理に就て 小林丑三郎述  
北海道に於ける甜菜糖業の勃興 北大經濟學  
大藏省預金部論 山田幸太郎著

キーンズの幣制改革論(パンフレット一八) 大内 兵衛著

四 政治法制  
政治讀本 尾崎 行雄著  
政治學の任務と對象 蠟山 政道著  
政治的認識の基礎 村瀨武比古著  
國家的形而上學的學說 レオナルド・ホプハウス著  
政治學史 鈴木榮太郎譯  
政治學說史 シュテレル  
政治學史論 藤本 直譯  
政治學の根本問題 戸澤 鐵彦著  
立憲政治の實體及其運用 リンシャルド  
憲政政治の理論と實際 ベルグセル  
比例代表法の研究 岡延右衛門著  
普通選舉の精神 馬場 鏡一著  
改正衆議院議員選舉法示解 森口 繁治著  
比例代表制度論 上杉 慎吉著  
政黨心理の研究(新學說大系七) 法令研究會編  
國家生活の倫理 大日本文明協  
國體と倫理 會編纂  
ロバート・ミ  
ヘルス著  
西村二郎譯述  
池岡 直孝著  
吉田 熊次著

國家論 上杉 慎吉著  
 國體論 上杉 慎吉著  
 人性論より見たる日本國體 代々木四方志著  
 我國體と國民道德 井上哲次郎著  
 最近政治經濟講話 實業同志會編  
 ダンテ帝政論書簡集 中山 昌樹譯  
 日本憲法比較對照世界各國 土橋友四郎譯著  
 憲法 大田 郁夫著  
 現代日本の政治過程 尾竹 竹猛著  
 維新前後に於ける立憲思想 仲原 善伸著  
 日本外交史 中島 九郎著  
 對米日支移民問題の解剖 山本美越乃著  
 改訂植民政策研究 高岡 熊雄著  
 ブラシル移民研究 善生 永助著  
 朝鮮の人口研究 東郷 實著  
 植民政策と民族心理 千葉 了二著  
 朝鮮獨立運動秘話 吳 宗 慈著  
 中華民國憲法史 松島 宗衛著  
 清朝末路秘史 中江 丑吉著  
 支那古代政治思想史 濱岡 士毅著  
 民國財政史 濱岡 士毅著  
 近代蒙古史研究 矢野 仁一著  
 米國近世政治經濟史 ビヤード著  
 恒松 安夫譯

米國の政治道德の基調とし 鳥本愛之助著  
 ての功利主義の發達 大内 兵衛著  
 現代イギリスの政治過程 清澤 潤著  
 米國の研究 一九二四・二・七の獨逸 日本銀行  
 一四二四・二・七の獨逸 川村貞四郎著  
 ムンリニとフアシスト運動 津久井龍雄譯述  
 プラトニオン理想國(新學說 大系一) 建部 遜吾著  
 平和問題 山内雄太郎共著  
 國際條約集 松原一郎纂輯  
 國際紛争と國際聯盟 信夫 淳平著  
 國際政治の綱紀及連鎖 信夫 淳平著  
 國際聯盟と世界平和 古垣 鐵郎著  
 國際聯盟と世界平和 古垣 鐵郎著  
 法律に於ける意識的と無意識的 牧野 英一著  
 法律に於ける意識的と無意識的 牧野 英一著  
 法律に於ける具體的妥當性 牧野 英一著  
 法律に於ける階級闘争 平野義太郎著  
 行政學と法律學 田村 徳治著  
 法制講話 森 莊三郎著  
 法憲講話 末弘嚴太郎著  
 私法變遷論 レオン・デュギイ著  
 帝國公法大意 西島彌太郎譯  
 最近法學通論 清水 澄著  
 民約論 星野 武雄著  
 平林初之輔譯

民法概論 三浦 忠彦著  
 民法釋義(債權篇) 梶 康郎著  
 民法に於ける特殊問題の研 宋川 博著  
 究卷一 中島 弘道著  
 民法通論 鳩山 秀夫著  
 民法研究(第一卷) 齋藤當三郎述  
 (神戸高商講義集二二) 岩田 新著  
 日本民法總論 長島 毅著  
 民法概論 勝本勘三郎著  
 民法の理論及政策 久禮田益喜著  
 日本刑法總論 山岡萬三郎著  
 刑法總論 磯谷幸次郎著  
 日本刑法總論 鳩山 秀夫著  
 刑事政策學 岩田 新著  
 改訂債權法論(總論) 田中耕太郎著  
 債權法概論 美濃部達吉著  
 債權法論 濱田道之助著  
 高法總論概要 里見馬城夫著  
 類集評論行政法判例 三浦 周行著  
 產業組合法解説 中村 進午著  
 住宅組合法解説 稻嶺 重造著  
 續法制史の研究 原 勝郎著  
 法制上の女子 フロイヌ・メ  
 婚姻制度講話 松原 幹雄譯  
 世界大戦史 瓜哇史

知られざる國々 地理調査會刊  
 亞東指要 山根 偉三著  
 島田三郎全集 能田 葦城記  
 觀樹將軍回國錄 政 教 社編  
 觀樹將軍回國錄 德富猪一郎著  
 三十七・八年役と外交

五 調査及統計  
 大日本都市別人口密度表 柳 澤 統 計  
 大日本帝國都市別人口密度表 研 究 所  
 近畿地方町村別人口密度表 同 右  
 第一回労働統計實地調査概要 東 京 府  
 大阪府労働實地調査の概要 大 阪 府  
 大阪府第一回労働統計實地 大 阪 市 役 所  
 調査概要 同 右  
 第一回労働統計實地調査と 同 右  
 兵庫縣第一回労働統計實地 兵 庫 縣  
 調査概要 同 右  
 神戸市第一回労働統計實地 神 戸 市 役 所  
 調査(上下) 同 右  
 名古屋市労働統計實地調査 名 古 屋 市  
 (上下) 同 右  
 三重縣労働統計實地調査の 三 重 縣  
 概要 同 右  
 奈良縣第一回労働統計實地 奈 良 縣  
 調査概要 同 右  
 山梨縣第一回労働統計實地 山 梨 縣  
 調査概要 同 右

秋田縣第一回労働統計實地 秋 田 縣  
 調査の概要 大 阪 府 工 場 課  
 大阪府工場要覽(大正十四年 兵 庫 縣 工 場 課  
 版) 新 潟 縣 工 場 課  
 新潟縣工場要覽 高 知 縣 警 察 部  
 (大正十三年) 佐 世 保  
 労働統計(第四、五、六號) 海 軍 工 廠  
 求職事情に關する調査 東 京 中 央 職 業  
 (第二卷) 紹 介 所  
 職業紹介事業に關する参考 同 右  
 資料(第七輯) 同 右  
 本邦職工職夫の賃銀に關す 同 右  
 る月別調査 同 右  
 製造業に於ける重大傷害統計 同 右  
 労働者災害補償法令集 同 右  
 (第一集) 同 右  
 日本に於ける災害防止運動 同 右  
 及工場衛生 同 右  
 本邦に於ける工場法實施の 同 右  
 概要 同 右  
 社會保險に關する労働事務 同 右  
 局調査報告書 同 右  
 工場安全法制 同 右  
 産業或勞に就て(工場衛生資 同 右  
 料二二) 同 右  
 主要工場就業規則案 同 右  
 常備労働者生活調査(調査報 同 右  
 告一) 同 右

大阪鐵工所 大 阪 鐵 工 所  
 從業員狀勢調査成績報告書 大 阪 市 調 査 課  
 硝子労働從業者の勞働と生 同 右  
 活(勞働調査報告三三) 同 右  
 硝子製造從業者の勞働と生 同 右  
 活(勞働調査報告三三) 同 右  
 永小作權に關する調査(其一) 農 林 省 農 務 局  
 調査(第一次) 同 右  
 耕地の擴張及潰廢に關する 同 右  
 調査(第一次) 同 右  
 (大正一四・七) 同 右  
 土地利用計畫一覽(大正一四 同 右  
 三現在) 同 右  
 開墾地經營に關する調査 同 右  
 (第一輯) 同 右  
 道府縣耕地改良及擴張事業 同 右  
 の概要 同 右  
 耕地主任會議要録 同 右  
 小作地返還面積に關する調 同 右  
 査 同 右  
 農村事情に關する調査 同 右  
 (第二輯) 同 右  
 東京府西多摩郡戸倉村に於 同 右  
 ける農村保健衛生實地調査 同 右  
 報告 同 右  
 鳥根縣大原郡神原村に於け 同 右  
 る農村保健衛生實地調査報 同 右  
 告 同 右  
 農村經營改善調査 同 右  
 農家現狀調査報告(大正十三 同 右  
 年度) 同 右  
 大原郡阿用村に於ける水稻共 同 右  
 同經營の成績(大正十三年度) 同 右

秋田縣第一回労働統計實地 秋 田 縣  
 調査の概要 大 阪 府 工 場 課  
 大阪府工場要覽(大正十四年 兵 庫 縣 工 場 課  
 版) 新 潟 縣 工 場 課  
 新潟縣工場要覽 高 知 縣 警 察 部  
 (大正十三年) 佐 世 保  
 労働統計(第四、五、六號) 海 軍 工 廠  
 求職事情に關する調査 東 京 中 央 職 業  
 (第二卷) 紹 介 所  
 職業紹介事業に關する参考 同 右  
 資料(第七輯) 同 右  
 本邦職工職夫の賃銀に關す 同 右  
 る月別調査 同 右  
 製造業に於ける重大傷害統計 同 右  
 労働者災害補償法令集 同 右  
 (第一集) 同 右  
 日本に於ける災害防止運動 同 右  
 及工場衛生 同 右  
 本邦に於ける工場法實施の 同 右  
 概要 同 右  
 社會保險に關する労働事務 同 右  
 局調査報告書 同 右  
 工場安全法制 同 右  
 産業或勞に就て(工場衛生資 同 右  
 料二二) 同 右  
 主要工場就業規則案 同 右  
 常備労働者生活調査(調査報 同 右  
 告一) 同 右

民法概論 三浦 忠彦著  
 民法釋義(債權篇) 梶 康郎著  
 民法に於ける特殊問題の研 宋川 博著  
 究卷一 中島 弘道著  
 民法通論 鳩山 秀夫著  
 民法研究(第一卷) 齋藤當三郎述  
 (神戸高商講義集二二) 岩田 新著  
 日本民法總論 長島 毅著  
 民法概論 勝本勘三郎著  
 民法の理論及政策 久禮田益喜著  
 日本刑法總論 山岡萬三郎著  
 刑法總論 磯谷幸次郎著  
 日本刑法總論 鳩山 秀夫著  
 刑事政策學 岩田 新著  
 改訂債權法論(總論) 田中耕太郎著  
 債權法概論 美濃部達吉著  
 債權法論 濱田道之助著  
 高法總論概要 里見馬城夫著  
 類集評論行政法判例 三浦 周行著  
 產業組合法解説 中村 進午著  
 住宅組合法解説 稻嶺 重造著  
 續法制史の研究 原 勝郎著  
 法制上の女子 フロイヌ・メ  
 婚姻制度講話 松原 幹雄譯  
 世界大戦史 瓜哇史



露領黒龍州の畜業(同右一)	満鐵・調査課	産業組合の經營する製糸事業(資料七)	同	支那旅行大惑小惑(二村光二)	満鐵・社會課
露國工業法概要(勞農露國調査資料二三四)	同	ロッヂデール消費組合の先驅者(資料八)	同	支那地質調査報告類集(南支那及南洋調査一〇一)	臺灣總督官房
露國工業經濟に關する指導的意見(同右二五)	同	市街地購買組合に關する調査(資料九)	同	馬來半島内土侯州英國政府間の條約(同右一〇〇)	同
露國共產黨第十二回大會決議(同右附録)	同	産業組合の本質と農業に於ける其活動の諸相(資料一〇)	同	支那關稅改正問題(同右二二)	同
露領極東及西比利亞の經濟事情(同右二六、二七)	同	全露消費組合中央聯合會と全露産業組合銀行(資料一一)	同	支那關稅改正問題(同右)	啓明會
露國の工場委員會(同右二八)	同	英國産業組合教育事業(資料一二)	同	支那關稅改正問題(同右)	啓明會
勞農露國の言論機關(同右二九、三〇)	同	滿洲に於ける産業組合(滿鐵調査資料四三)	同	支那關稅改正問題(同右)	大阪市産業部
ソヴェートの執行委員會(同右三一、三二)	同	産業組合現勢調査	同	支那關稅改正問題(同右)	同
ソヴェートの聯邦通商事情(同右三三、三四)	同	都市金融の概況(都市金融調査報告一)	同	支那關稅改正問題(同右)	同
ソヴェートの聯邦外國貿易制度及組織(同右三五)	同	市設貯蓄銀行(同右二)	同	支那關稅改正問題(同右)	同
ソヴェートの社會主義共和國聯邦鐵道規定(哈調資料五一)	同	電力大都市集中と超電力聯系並に波數統一に就て	同	支那關稅改正問題(同右)	同
市街地信用組合(都市庶民金融調査三)	同	米國の都市教育組織(市政調査資料八)	同	支那關稅改正問題(同右)	同
諸外國に於ける産業組合に關する法令(上下)	同	ピアード博士講演集	同	支那關稅改正問題(同右)	同
産業組合の經營する農業倉庫(資料三)	同	都市財政に於ける特別賦課問題(市政調査資料一)	同	支那關稅改正問題(同右)	同
伊太利の農事産業組合(資料四)	同	帝都の制度に關する意見	同	支那關稅改正問題(同右)	同
印度の農事産業組合(資料五)	同	國都及大都市制	同	支那關稅改正問題(同右)	同
獨逸産業組合の過去、現在及將來(資料六)	同	小市民は東京市に何を希望してゐるか	同	支那關稅改正問題(同右)	同
		我等の東京	同	支那關稅改正問題(同右)	同

支那蠶糸類輸出統計

支那蠶糸類輸出統計	蠶糸業同業組合中央會	大正十三年度同	同	國勢調査報告府縣の部	同
支那國立銀行に關する調査(調査資料三)	滿鐵・調査課	震災に因る日本の損失	同	第三卷 大阪府	同
井上準之助氏の「戦後に於ける我國の經濟及金融」を讀む	大阪商銀行業務研究室	第十六回國際議院商會議報告書	同	第五卷 兵庫縣	同
北海道樺太對各地間出入金高調(大正十二年)	北海銀行	新土耳其の建設その他(啓明會第十六回講演集)	同	第六卷 長野縣	同
北海道及樺太各地銀行預金貸借高調(大正九一三)	同	露支國境考(哈調資料五二)	同	第七卷 新潟縣	同
本邦に於ける主要外國銀行米國預金保證制度の實績	同	南滿洲鐵道株式會社關係條約集	同	第十四卷 三重縣	同
不動産抵當個人間貸借金利	同	滿洲現代史(調査資料四七)	同	第十五卷 愛知縣	同
中央銀行制度私案綱要	同	大正大震災災誌	同	第十六卷 岡山縣	同
債券投資の本質に就て(藤本ハツフレット二)	同	國勢調査速報(大正十四年)	同	第十七卷 石川縣	同
本邦信託會社調	同	失業統計調査速報(大正十四年)	同	第十八卷 鳥取縣	同
支那政府の財政状態に關する記録(ハツフレット四)	同	列國國勢要覽(大正十四年)	同	第十九卷 香川縣	同
埃太利經濟事情並に英國勞働組合會議に就て	同	日本帝國統計年鑑(第四十四回)	同	第二十卷 高知縣	同
朝鮮の私設鐵道(調査報告二五)	同	日本帝國統計摘要(第三十九回)	同	第二十一卷 高知縣	同
旅順を漁港とする問題について(ハツフレット一五)	同	日本帝國人口動態統計摘要(大正十三年)	同	第二十二卷 高知縣	同
滿洲と鐵道との關係調査(三)	同	日本帝國人口動態統計(大正十三年)	同	第二十三卷 高知縣	同
大正十二年電氣事業成績調査	同	日本帝國人口動態統計記述(大正十二年)	同	第二十四卷 高知縣	同
	同	日本帝國死因統計(大正十三年)	同	第二十五卷 高知縣	同
	同		同	第二十六卷 高知縣	同
	同		同	第二十七卷 高知縣	同
	同		同	第二十八卷 高知縣	同
	同		同	第二十九卷 高知縣	同
	同		同	第三十卷 高知縣	同
	同		同	第三十一卷 高知縣	同
	同		同	第三十二卷 高知縣	同
	同		同	第三十三卷 高知縣	同
	同		同	第三十四卷 高知縣	同
	同		同	第三十五卷 高知縣	同
	同		同	第三十六卷 高知縣	同
	同		同	第三十七卷 高知縣	同
	同		同	第三十八卷 高知縣	同
	同		同	第三十九卷 高知縣	同
	同		同	第四十卷 高知縣	同
	同		同	第四十一卷 高知縣	同
	同		同	第四十二卷 高知縣	同
	同		同	第四十三卷 高知縣	同
	同		同	第四十四卷 高知縣	同
	同		同	第四十五卷 高知縣	同
	同		同	第四十六卷 高知縣	同
	同		同	第四十七卷 高知縣	同
	同		同	第四十八卷 高知縣	同
	同		同	第四十九卷 高知縣	同
	同		同	第五十卷 高知縣	同
	同		同	第五十一卷 高知縣	同
	同		同	第五十二卷 高知縣	同
	同		同	第五十三卷 高知縣	同
	同		同	第五十四卷 高知縣	同
	同		同	第五十五卷 高知縣	同
	同		同	第五十六卷 高知縣	同
	同		同	第五十七卷 高知縣	同
	同		同	第五十八卷 高知縣	同
	同		同	第五十九卷 高知縣	同
	同		同	第六十卷 高知縣	同
	同		同	第六十一卷 高知縣	同
	同		同	第六十二卷 高知縣	同
	同		同	第六十三卷 高知縣	同
	同		同	第六十四卷 高知縣	同
	同		同	第六十五卷 高知縣	同
	同		同	第六十六卷 高知縣	同
	同		同	第六十七卷 高知縣	同
	同		同	第六十八卷 高知縣	同
	同		同	第六十九卷 高知縣	同
	同		同	第七十卷 高知縣	同
	同		同	第七十一卷 高知縣	同
	同		同	第七十二卷 高知縣	同
	同		同	第七十三卷 高知縣	同
	同		同	第七十四卷 高知縣	同
	同		同	第七十五卷 高知縣	同
	同		同	第七十六卷 高知縣	同
	同		同	第七十七卷 高知縣	同
	同		同	第七十八卷 高知縣	同
	同		同	第七十九卷 高知縣	同
	同		同	第八十卷 高知縣	同
	同		同	第八十一卷 高知縣	同
	同		同	第八十二卷 高知縣	同
	同		同	第八十三卷 高知縣	同
	同		同	第八十四卷 高知縣	同
	同		同	第八十五卷 高知縣	同
	同		同	第八十六卷 高知縣	同
	同		同	第八十七卷 高知縣	同
	同		同	第八十八卷 高知縣	同
	同		同	第八十九卷 高知縣	同
	同		同	第九十卷 高知縣	同
	同		同	第九十一卷 高知縣	同
	同		同	第九十二卷 高知縣	同
	同		同	第九十三卷 高知縣	同
	同		同	第九十四卷 高知縣	同
	同		同	第九十五卷 高知縣	同
	同		同	第九十六卷 高知縣	同
	同		同	第九十七卷 高知縣	同
	同		同	第九十八卷 高知縣	同
	同		同	第九十九卷 高知縣	同
	同		同	第一百卷 高知縣	同





大原社會問題研究所設立趣意書

世界戦争以來、社會問題の解決は我國に於ても、其の急を要するに到つた。此の問題の解決は、公平なそして飽くまでも根本的な立場からするを要し、決して一部利害關係者の見地からすべきでない。それには、問題の基礎に遡り、我が國の實際に鑑み、且つ諸外國の實例に徴して、充分研究調査を遂げなければならぬ。本研究所は此の趣旨の下に建てられたものであり、其事業の計畫は大體次に掲ぐる規程の如くである。

財團 大原社會問題研究所規定(摘録)

- 第一條 本所ハ社會問題ニ關スル學術上ノ研究調査ヲ行ヒ社會問題ノ解決ニ資スルヲ以テ目的トス
- 第二條 前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フモノトス
  - 一 社會問題ニ關スル學術上ノ研究調査ヲ行フコト
  - 二 社會問題ニ關スル圖書及資料ヲ蒐集シ研究者閱覽ノ便ヲ圖ルコト
  - 三 社會問題ニ關スル印刷物ヲ刊行スルコト
  - 四 其ノ他役員會ニ於テ必要ト認メタル事業
- 第三條 本所ハ大原社會問題研究所ト稱ス

第四條 本所ハ事務所ヲ大阪市天王寺區俗人町二十四番地ニ設ク

- 第十一條 本所ニ左ノ役員ヲ置ク
  - 一 理事 貳名
  - 二 監事 壹名
  - 三 委員 若干名

創立月日

大正八年二月九日

役員

- |             |         |
|-------------|---------|
| 常務理事        | 高野岩三郎   |
| 理事          | 高田慎吾    |
| 監事          | 柿原政一郎   |
| 委員 (ABC順)   | 權田保之助   |
|             | 久留間皎造   |
|             | 森戸辰男    |
|             | 高野岩三郎   |
| 其他所員        | 高田慎吾    |
|             | 細川嘉六    |
|             | 權田民藏    |
|             | 大田宗嗣    |
|             | 北澤新次郎   |
| 圖書主任        | 森川隆夫    |
| 研究囑託 (ABC順) | 長谷川 萬次郎 |
|             | 大内 兵衛   |

大原社會問題研究所出版書目録

(一)大原社會問題研究所雜誌

當研究所で社會問題の各部門に關する研究及調査を發表する純學術雜誌であつて、年四回發行の豫定である

第一卷第一號(第一冊)大正十二年八月廿日發行

定價 九〇錢 送料 八

- アドルフ・ケトレーと唯物論的見解……………高野岩三郎
- 唯物史觀に於ける「生産」及「生産方法」……………榊田民藏
- ドイツ社會黨合同問題と其背景……………森戸辰男
- 東京市に於ける勞働者家計の一模型……………權田保之助
- 古典派、俗派、歴史派及マルクス派經濟學(ローザ・ルクセンブルグ)……………久留間皎造
- 大阪市公園利用狀態調査……………大林宗嗣
- マルクスのユダヤ人問題……………細川嘉六
- アダム・スミス誕生二百年……………久留間皎造
- 當所々藏アダム・スミス關係圖書

第二卷第一號(第二冊)大正十三年四月一日發行

定價 二〇〇錢 送料 一五

ズエーヌミルヒの人口論.....高野岩三郎

經濟現象に於ける權力關係.....長谷川萬次郎

社會生活に於ける娯樂の一考察.....權田保之助

ケネーの「經濟表」と唯物史觀.....榊田民藏

ドイツ兩社會黨合同前史.....森戸辰男

貨幣の必然性(ヒルファアディング).....久留間皎造

社會主義と植民政策(カウツキー).....細川嘉六

社會主義と植民政策に關するエンゲルスの書簡.....細川嘉六

平均利潤率と勞働價值説との關係(マルクス剩餘價值學説史の一節).....久留間皎造

第二卷第二號(第三册)大正十三年十二月十日發行

定價 一〇〇錢 送料 八錢

社會科學者としてのキリアム・ベツティ.....高野岩三郎

ドイツ社會民主黨合同の経緯.....森戸辰男

ヘーゲルの哲學史とマルクスの經濟學史.....久留間皎造

東京市に於ける小額俸給生活者家計の一模型.....權田保之助

米國に於ける産業別組合の發達.....北澤新次郎

「チャーチズム」緒論.....大林宗嗣

マルクスの經濟學説を克服する唯一の方法.....久留間皎造

第三卷第一號(第四册)大正十四年一月一日發行

定價 一〇〇錢 送料 八錢

マルクス價值概念に關する一考察.....榊田民藏

ドイツ社會黨合同の完成.....森戸辰男

帝國主義と無産階級.....細川嘉六

ニュー・ラナーク講話.....大林宗嗣

支那侵略.....細川嘉六

理論家としてのレーニン.....久留間皎造

兒童の公的扶養問題.....高田慎吾

第三卷第二號(第五册)大正十四年四月廿日發行

定價 一〇〇錢 送料 八錢

イギリス勞働黨内閣の外交策.....大内兵衛

兒童保護の經濟的基礎.....高田慎吾



日本現時の労働人口と問題の無産政黨	橋田民藏
普選法案中の缺格者に就て	高田愼吾
世界生産體系の變遷に關するバルヴスの解釋	細川嘉六
ユダヤ人問題(カール・マルクス)	久留間較造
マルクスの「剩餘價值學說史」と階級闘争	森戸辰男
マルクス論の一節(ニコライ・レーニン)	細川嘉六
第四卷第一號(第六册)大正十五年三月一日發行	定價 一八〇 送料 八
本邦に於ける社會經濟組織の推移	高野岩三郎
マルクス國家觀の生誕	森戸辰男
私生子問題に就て	高田愼吾
労働組合法問題をめぐる二つの經濟思想	權田保之助
労働者及小額俸給生活者の家計狀態比較	權田保之助
セツルメントの思想的背景	大林宗嗣
ホブソン著「帝國主義研究」	細川嘉六
「經濟學批判」(カール・マルクス)の腹案に就て	久留間較造

四

(二)大原社會問題研究所パンフレット

税制改革論批判(カール・マルクス)	大内兵衛
當研究所が社會問題の研究に適當なる參考資料を撰び、不定期に刊行せんとするものであつて、既刊の分は左の如くである。	
第一册 資本主義國家の一歸着點(獨逸戰後の經濟狀態)	大内兵衛 著(品切) 定價 三〇 送料 二
第二册 現實と理想と空想	高野岩三郎 著(品切) 三〇 二
獨逸社會民主黨新綱領解説(ベルンスタイン)	高野岩三郎 譯 三〇 二
附、クロボトキンの死	森戸辰男 著 三〇 二
第三册 I.W.W.の先驅としてのナイツ・オブ・レーバー	北澤新次郎 著(品切) 三〇 二
附、労働組合問題の世界政策的提案	ルードナー 著 三〇 二
第四册 無産兒保護策に於る新傾向	高田愼吾 著(品切) 三〇 二
第五册 社會革命と民衆娛樂	權田保之助 著(品切) 三〇 二
第六册 英國炭業に於ける賃銀制度の展開	細川嘉六 著(品切) 三〇 二
第七册 ロシヤ大飢饉と其救濟運動	森戸辰男 著(品切) 五〇 二
第八册 俸給生活者の没落と其運動	大内兵衛 著(品切) 三〇 二

五

第九冊	カール・マルクス「自由貿易問題」……………	梅田民藏譯(品切)	三〇	二
第十冊	都市社會政策としての公園問題……………	大林宗嗣著(品切)	三〇	二
第十一冊	英國に於ける國家内の一國家……………	細川嘉六著	三〇	二
	(英國炭坑組合運動の發展)			
第十二冊	資本主義社會に於ける再生産の問題……………	久留間皎造譯	三〇	二
	(ローザ・ルクセンブルグ)			
第十三冊	英國議會に於ける勞資の對戦……………	大内兵衛著	三〇	二
第十四冊	ヴェブレンの産業組織論……………	北澤新次郎著	三〇	二
第十五冊	勞働黨内閣の財政策……………	大内兵衛著	三〇	二
第十六冊	最近の本邦社會統計資料……………	高野岩三郎著	三〇	二
第十七冊	資本主義のヨーロッパと社會主義のロシア……………	越智道順譯	三〇	二
	附、トロツキー「ヨーロッパ合衆國論」			
第十八冊	キーンズの「幣制改革論」……………	大内兵衛著	三〇	二
第十九冊	マルクス「剩餘價值學說史」第一卷第一分冊……………	森戸辰男譯	三〇	二
第二十冊	マルクス「剩餘價值學說史」第一卷第二分冊……………	森戸辰男譯	三〇	二

六

第廿一冊	社會批評家としてのアプトン・シンクレヤ……………	北澤新次郎著	三〇	二
第廿二冊	マルクス「剩餘價值學說史」第一卷第三分冊……………	梅田民藏譯	三〇	二
第廿三冊	マルクス「剩餘價值學說史」第一卷第四分冊……………	大内兵衛譯	三〇	二
第廿四冊	マルクス「剩餘價值學說史」第一卷第五分冊……………	森戸辰男譯	六〇	四

(三) 大原社會問題研究所年鑑

當研究所が勞働問題、社會事業、(社會衛生)てふ社會問題の資料として前年中の事實と傾向とを叙し、加ふるに各部門關係の基礎的統計を蒐録したものである。

日本勞働年鑑	(大正九年版)	(品切)	三、六〇	送料
同	(大正十年版)	(同)	四、五〇	一八
同	(大正十一年版)	(同)	三、〇〇	一八
同	(大正十二年版)	(同)	三、〇〇	一八
同	(大正十三年版)		五、〇〇	一五
同	(大正十四年版)		四、〇〇	一五
日本社會事業年鑑	(大正九年版)	(品切)	一、八〇	一五
同	(大正十年版)	(同)	二、五〇	一五

七

同	(大正十一年版)	(同)	二、〇〇	一五
同	(大正十二年版)		二、五〇	一五
同	(大正十三年版)		四、〇〇	一五
同	(大正十四年版)		二、五〇	一二
日本社會衛生年鑑	(大正九年版)	(品切)	二、二〇	一五
同	(大正十年版)	(同)	二、五〇	一五
同	(大正十一年版)	(同)	四、〇〇	一八
同	(大正十四年版)	(同)	三、〇〇	一五

(大正十二年版以降は岡山縣倉敷町勞働科學研究所に於て編纂出版す)

(四) 大原社會問題研究所叢書

當研究所が社會問題の各方面に關する特殊の研究調査を行ひたる結果を發表し、又は社會問題に關する權威ある文獻を翻譯刊行するものであつて、既刊の書は左の如くである。

- (一) 幼兒保護及福利増進運動……………大林宗嗣著(品切) 定價 一、五〇 送料 六錢
- (二) 乳兒死亡の社會的原因に關する考察……………暉峻義等著(品切) 一、八〇 四
- (三) ソーシアル・セツトルメント事業の研究……………大林宗嗣著(品切) 一、〇〇 四

- (四) ビアトリス・ボッター著消費組合發達史論……………久留間皎造譯 二、〇〇 一五
- (五) 民衆娛樂の實際研究……………大林宗嗣著(品切) 三、三〇 一五
- (六) 本邦消費組合論……………久留間皎造著(品切) 二、〇〇 一五
- (七) ウエップ夫妻著産業民主制論(上卷)……………高野岩三郎譯(品切) 二、五〇 一五
- (八) 東京市に於ける機械工業の熟練職工としての……………北澤新次郎著 一、〇〇 八
- 仕上工並に旋盤工の資銀調査報告
- (九) ウエップ夫妻著消費組合運動……………山村喬譯 四、八〇 二〇
- (十) ウエップ夫妻著大英社會主義國の構成……………丸岡重堯譯 三、五〇 一五

本所の出版物は總て東京市神田區西紅梅町十二番地同人社書店にて發賣してゐる。

# 目書版出社人同

著 譯 者	書 名	定 價	送 料	著 譯 者	書 名	定 價	送 料
高野岩三郎著	社會統計學史研究	一、五〇	〃	高野岩三郎著	マルクス・エンゲルス評傳	一、三〇	〃
高野岩三郎著	マルサス人口の原理	二、五〇	〃	大内兵衛譯	マルクスの民族社會國家觀	一、六〇	〃
大内兵衛譯	本邦人口の現在及將來	一、〇〇	〃	森谷克巳譯	社會主義と農業問題	一、八〇	〃
高野岩三郎著	日本社會事業年鑑	二、〇〇	〃	河西太一郎譯	農業の社會化	二、〇〇	〃
大原社會問題研究所編纂	最近ドイツ社會黨史	二、五〇	〃	瀧川政次郎著	日本農民の生活	二、五〇	〃
森戸辰男著	現代イギリスの政治過程	二、〇〇	〃	石濱知行著	闘争の跡を訪ねて	一、八〇	〃
大内兵衛著	近代ロシア社會史研究	二、八〇	〃	井口孝親譯著	ローザ・ルクセンブルグの毛紙	一、五〇	〃
嘉治隆一著	フオイエルバッハ論	一、二〇	〃	山村喬譯	消費組合運動	四、八〇	〃
佐野文夫譯	猶太人問題を論ず	一、〇〇	〃	丸岡重堯譯	大英社會主義國の構成	二、五〇	〃
久留間敏造譯	英國勞働階級の狀態	三、〇〇	〃	久留間敏造譯	消費組合發達史論	二、〇〇	〃
細川嘉六譯	資本蓄積再論	一、六〇	〃	林要譯	社會主義及社會運動	三、五〇	〃
宗道太譯	通俗資本論	三、五〇	〃	細野三千雄譯	勞働組合の理論と歴史	一、六〇	〃
水谷長三郎譯	科學的社會主義序論	一、六〇	〃	森戸辰男譯	醫療の社會化	一、五〇	〃
水谷長三郎譯	史的唯物論略解	一、〇〇	〃	社會學會編	産業別勞働組合主義	二、八〇	〃
水谷長三郎譯	唯物史觀批判	一、六〇	〃	松澤兼人譯	セツツルメントの研究	一、八〇	〃
水谷長三郎譯				大林宗嗣著			

THE  
Labour Year-Book of Japan, 1926  
THE SEVENTH ISSUE

Compiled by Ohara Institute of Social Research  
OSAKA, JAPAN

---

CONTENTS

	Page
<b>Introduction—General Outline</b>	
<b>Part I.</b> Condition of the Working Class..... 1 (Including 6 Chapters and 26 Statistical Tables)	1
<b>Part II.</b> Labour Movement ..... 153 (Including 4 Chapters and 9 Statistical Tables)	153
<b>Part III.</b> Labour Policies by Employers and Authorities, Public and Private ..... 355 (Including 5 Chapters and 6 Statistical Tables)	355
<b>Part IV.</b> Socialistic and Anti-socialistic Movements ... 439	439
<b>Part V.</b> International Labour Problem ..... 465	465
<b>Supplementary Part</b> Politics, Public Finance, Economics, Population in General ..... 489	489
<b>Appendix I.</b> Labour Laws During the Year 1925 ..... 1	1
<b>II.</b> Bibliography..... 23	23

14.4

507

終

